

第9回北海道プライマリ・ケアフォーラム

抄録集

◆ワークショップ第1部◆ (13:00-14:20) ※以下3つより1つお選びください

< WS ① 学生企画 > 講師：釧路協立病院 澁谷仁美先生

【タイトル】「医師のキャリア選択～学生のいま何をすべきか～」

【紹介文】医師として人生を歩むとき、悩みながらどのように決断を重ねていくのでしょうか？先輩医師の体験談、一緒に聞いてみましょう！

【抄録】本企画ではワークショップ形式のレクチャーを通じて、将来のキャリア選択のために学生のうちからどんな準備が必要なのかを学びます。

初期研修・後期研修を通してどんな経験をし、どんな準備が必要だと感じたのかを先輩の医師から学び、医師のキャリア選択について一緒に考えてみませんか。

< WS ② リハビリ > 講師：札幌溪仁会リハビリテーション病院 橋本茂樹先生

【タイトル】「日常診療で必要なリハ的視点を育てましょう」

【紹介文】診察室や訪問先での診療におけるリハ的視点といっても、理学療法士や作業療法士をどう活用するの？という話ではなく、日常生活での活動における問題点を患者さんと共有して、どうしようかって一緒に悩んであげることが大切です。一歩、踏み出しましょう。

【抄録】リハ的視点を育てるためには、患者さんの観察からです。

歩き方、座り方、立ち上がり方をみます。左右差、スピード調整、困難性をじっくり観察、まず問題点を把握します。痛みがあるなら、どうしてそこが痛くなるのか考えます。高齢になると日常生活でのちょっとした慢性的な負荷が痛みを誘発することが多くなっていきます。日常生活を少し改めるだけで痛みを軽減できます。

少しだけ、簡単な筋力強化法を指導するだけで日常は変わります。もう一つは、嚥下面での観察です。咳の状態、水の飲み方等を観察するだけで、問題点を共有できます。その対応方法にもつながっていきます。もっともっと、リハ的視点を育ててみませんか。

< WS ③ マルチモビディティ > 講師：札幌医科大学総合診療医学講座 佐藤健太先生

【タイトル】「マルモのみかた」

【紹介文】熟練の経験と勘がなくても、マルチモビディティ(他疾患併存)を整理して見通しを立てるための方法論を学べます。

【抄録】マルチモビディティはCommonですが、ガイドラインの多くは単疾患が前提のため、現場では多職種の知恵を集めて粘り強く個別対応せざるを得ません。

近年はエビデンスが増え、書籍等で学べる機会も増えてきましたが、若手医師が一人で対応できるまでには依然多くのハードルがあります。

今回は、難しい理論なしでも、手順通りに問題を整理することで「マルモの四則演算」ができることを体験し、自信をつけてもらうことを目指します。

◆ワークショップ第2部◆ (14:40-16:00) ※以下3つより1つお選びください

< WS ④ 動機付け面接法 > 講師：手稲家庭医療クリニック 大塚亮平先生

【タイトル】「動機付け面接」で行動変容！」

【紹介文】禁煙やアルコール問題、生活習慣病など医療や健康の分野で有効なコミュニケーション方法を一緒に学びましょう！

【抄録】禁煙やアルコール問題、生活今回のセッションでは、行動変容のアプローチの中でも最もエビデンスがある方法の一つである「動機づけ面接」のいろはを学びます。

「動機づけ面接」は、患者の中にあるやる気を引き出し、行動変容を支援する協働的な面談スタイルです。禁煙やアルコール問題、生活習慣病など医療や健康の分野で有効なコミュニケーション方法を経験ある医師達と一緒に学びましょう！WS参加にあたって医学的知識は不要です。

< WS ⑤ スポーツ医学 > 講師：ファミリークリニックさっぽろ山鼻 松田諭先生

【タイトル】「プライマリ・ケアスポーツ医学に触れてみよう」

【紹介文】整形外科領域にとどまらない、家庭医・総合診療医によるスポーツ医学に触れてみませんか？

【抄録】スポーツ医学と聞くと、整形外科じゃないの？と思う方も多いかもかもしれません。

しかしスポーツ活動の現場で起こる問題は、実際には整形外科領域のみならず内科疾患や女性特有の問題、熱中症やドーピング・大会救護など活動が多岐にわたります。今回は家庭医・総合診療医だからこそすぐに実践できる内容を提供できたらと思っています。ぜひご参加ください！

< WS ⑥ 緩和ケア > 講師：札幌南徳洲会病院 名越康晴先生

【タイトル】「看取り、出来ますか？～緩和ケアの視点から～」

【紹介文】看取りの「プロセス」を他職種と一緒に考えていきましょう。

【抄録】医学生時代、死亡診断書の書き方は学んだことがありますが、死亡確認の仕方について学ぶことはありませんでした。医者になった後も指導医と一緒に見取りの場に入ることがあったくらいで、「どう看取るか」については見よう見まねだったというのが現状です。

高齢化が進む中、病院でも在宅でも看取りの場面は誰もが経験することです。死亡診断時の立ち振る舞いは勿論ですが、そこに至るまでのプロセスは重要です。そこには様々な職種の方々が関わる必要があります。

「良い看取り」のためにどのように振る舞えばよいか、事例やレクチャー、グループワークなどを通じて一緒に考えたいと思います。参加職種は問いません。学生さんの参加も大歓迎です。

◆ 学 術 集 会 ◆ (16:20-17:20)

北海道ブロック支部第6回学術集会／第101回北海道医学大会 プライマリ・ケア分科会

一般演題発表 6題・プログラム・抄録は別添ファイルのとおり

座長：北海道立大学法人 札幌医科大学 総合診療医学講座助教 濱田修平先生

◆学術集会 並行企画◆対象：学生 (16:20-17:20)

【タイトル】「語り合おう！あなたにとっての総合診療2021」

【紹介文】ワールドカフェ形式で今日のフォーラムで感じたこと、学んだことについて自由に語り合います。どうぞ気軽にお立ち寄りください♪

【抄録】普段話すことが出来ない現場で働く、総合診療医/家庭医として働く先生方や、他の参加学生と自由に語っていただく場です。

入退室自由・事前申込み不要です。どなたでも参加できます。

気兼ねなくご参加いただきますようお願いいたします！

◆ 基 調 講 演 ◆ (17:30-18:50)

講 師：医療法人社団ナラティブホーム ものがたり診療所所長 佐藤伸彦先生

【タイトル】「ものがたりのチカラ」

【抄録】私たちは日々、事柄と事柄をつないで意味づけを行っている。その行為、または結果を「ものがたり」と定義し、人を理解する上でまずは理解しなければいけないものとして考えてみたい。そこから、「命」と「いのち」の違いについて考え、ひいてはこれからの医療や地域のあり方を、ものがたりの街の実践を踏まえて考えてみたいと思います。

【講師略歴】東京生まれ。国立富山大学医学部卒業

2009年医療法人社団ナラティブホーム創設

2010年ものがたり診療所開設

2020年ものがたりの街設立

座長：日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部 支部長 木佐健悟先生